



▲美ら海水族館。亜熱帯の海の生物を観察しました
(2日目 本部町(もとぶちょう))



▲巨大なガマ(洞窟)。戦時中は1000人もの方が避難しました。
(3日目 シムクガマ・チビチリガマ 読谷村(よみたんそん))

▲地元子供会連合会との交流会のようす(3日目 読谷村(よみたんそん))
▲マングループ観察(1日目 金武町(きんちよう))



▲ひめゆり平和祈念資料館で戦争体験を聞く子どもたち(4日目 糸満市(いとま))

研修の成果を報告

7/30 「第1回生命と地球 沖縄でのまでの旅」 報告会

「第1回生命と地球 沖縄でのまでの旅」報告会が公民館大ホールで行われました。

報告会は、子どもたちが班ごとに沖縄で学習したこと、感じたことなど研修の成果を発表しました。

発表の中では、戦地や平和記念資料館を見学したことに触れ「いつまでも平和な世界にしなければならぬと思いました」という意見や、環境破壊のために沖縄のサンゴが死んでいることを学び「水を汚さないようにしたい」などの発表がありました。



▲研修の報告をする子どもたち



▲読谷村(よみたんそん)・飯館村交流会のようす(2日目 読谷村)



▲出発式のようす(誓いの言葉 飯樋小 佐藤和奏さん)

『生命と地球 沖縄でのまでの旅』 子どもたちへの3つの目標

1. 今の私たちの平和で豊かな暮らしが、多くの人々のぎせいと努力に支えられていることを考えてみましょう。
2. 戦争のおろかさと人の命の大切さを考えてみましょう。
3. 地球の素晴らしさとそれを守っていく大切さを考えてみましょう。

「第1回生命と地球 沖縄でのまでの旅」が実施され、村内の小学6年生56人とスタッフ11人の67人が参加しました。今回の旅は、「命の尊さ」「自然を守ることの大切さ」を学ぶことを目的としています。3泊4日の旅の中で子どもたちは沖縄本島をまわりました。その中で、事前に掲げられた3つの目標(囲み参照)を考慮するために様々な体験学習を行いました。

体験学習では、沖縄の自然や生き物に触れることで自然環境の大切さ、地球の素晴らしさを学びました。また、日本国内唯一の戦場となった沖縄で戦争の歴史にふれることでその悲惨さ、命の大切さを学びました。また、交流会では地元の子どもたちが踊る「エイサー」「馬舞」を見学し、練習して行ったヨサコイを披露するなど交流を深めました。

6/27~30

命の尊さを学ぶ 第1回 生命と地球 沖縄でのまでの旅